

平成18年度新規採択 森林居住環境整備事業(国有林) 事前評価実施地区一覧表

四国森林管理局

整理 番号	都道府県	事業実施地区名	事業実施主体		総便益 (千円) B	総費用 (千円) C	分析 結果 B / C	必須事項		優先配慮事項																	
										1 事業で達成する 目標に関する事項					2 事業内容や実施体制等に関する事項												
										1	2	3	4	5													
1	香川県	香川	四国局	香川森林管理事務所	53,780	16,922	3.18						/	/	/	-	-	-	/	/	/	/	/	/	/	/	/

事前評価個表

事業名	森林居住環境整備事業（国有林）	事業計画期間	平成18年度～平成22年度
事業実施地区名 （都道府県名）	香川森林計画区（かがわ） （香川県）	事業実施主体	四国森林管理局 香川森林管理事務所
事業の概要・目的	<p>本事業は、香川森林計画区の国有林野7,530haのうち集落周辺の国有林野1,494haを対象としている。</p> <p>当地域では、水土保全、自然環境の保全など国有林に対する要請に応えつつ、集落周辺国有林の森林資源の造成など適切な森林整備を行うことにより、山村地域の居住環境の改善や都市と山村との交流等の促進にも資することを目的とする。</p> <p>主な事業内容 森林整備 更新面積 5(ha) 保育面積 54(ha)</p>		
費用対効果分析	総費用(C)	16,922千円	
	総便益(B)	水源かん養便益	33,294千円
		山地保全便益	13,515千円
		環境保全便益	2,965千円
		木材生産便益	4,006千円
		森林整備経費縮減等便益	0千円
		計	53,780千円
	分析結果(B/C)	3.18	
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 水土保全、自然環境の保全など公益的機能の発揮に関する地域の要請に応えるため、本事業の実施が必要である。 ・有効性： 国有林の地域別の森林計画に即した事業内容であり、水源地の状況など地域の特性を踏まえた有効な事業と認められる。 ・効率性： 森林整備に当たっては、植栽本数の減、保育の省力化など低コスト化に取り組むこととしており、十分な効率性が認められる。 <p>新規地区採択に当たっての審査項目（チェックリスト）、費用対効果分析及び各観点からの評価を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、森林の重視すべき機能の区分に応じた適切な森林整備が効率的に計画されているものと認められる。</p>		

国有林森林整備事業の事前評価の費用対効果集計表

森林管理署	香川
森林計画区	香川
事業名	森林居住環境整備事業

効果測定項目	評価内容	便益額 B (評価額)			備 考
		(千円)			
		森林整備計	路網整備計	計	
水源かん養便益	洪水防止便益	15,432		15,432	
	流域貯水便益	5,474		5,474	
	水質浄化便益	12,388		12,388	
国土保全便益	土砂流出防止便益	13,515		13,515	
	土砂崩壊防止便益				
環境保全便益	炭素固定便益	2,965		2,965	
林業生産便益	木材生産等経費縮減便益				
	木材利用増進便益				
	木材生産便益(森林整備分)	4,006		4,006	
	木材生産便益(路網整備分)				
森林整備経費縮減等便益	歩行時間等経費縮減便益				
	作業道作設経費縮減便益				
	治山経費縮減便益				
	森林管理等経費縮減便益				
総便益額 (B)		53,780		53,780	
総費用額 (C)		16,922		16,922	
費用対効果分析 (B) / (C) =				3.18	

注) 1 に適宜入力する。

2 (B) / (C) 1.0 であれば、社会経済的に評価でき、実行可能性があることを意味する。